



取締役副社長 統括本部長(財務担当役員)

## 山中 雅文

### PROFILE :

1978年株式会社三松、1988年株式会社トリイ(現・株式会社AOKIホールディングス)に入社、株式上場準備を担当し同社は1990年に名証2部上場。1995年当社入社。株式上場準備の責任者として、1999年9月に名証2部、2000年12月に東証1部への株式上場に貢献。その後、2004年に取締役財務部長、2006年6月には常務取締役としてコーポレート部門の責任者である統括本部長に就任、2012年に専務取締役、2016年に取締役副社長、一貫して統括本部長を務め、現在に至る。

# 充実した株主還元と長期視点での投資により、 企業価値・時価総額を高めていきます。

QUESTION 1 : 2022年度の財務状況と、2023年度の予想を教えてください。

ANSWER 1 : **増収増益を維持することができました。  
今後も、成長投資を実施しながら高い株主還元を継続していきます。**

持続的な成長を見据えた投資を着実に実施しながら、事業活動にともなうリスクを許容できる水準の株主資本を保持すること。それが当社の資本政策の基本方針です。資本効率の高い経営を目指し、自己資本当期純利益率(ROE)を経営指標に捉え、15%以上の水準を維持することを目指しています。株主還元についても、連結配当性向55%以上という高い目標を設定しています。

2022年度の業績は、売上高88,778百万円(前年度比9.0%増)、営業利益43,778百万円(前年度比5.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益30,008百万円(前年度比0.9%増)となりました。自己資本当期純利益率(ROE)は、16.2%となりました。株主還元については、好調な業績を踏まえて1株当たり年間配当金を67円50銭(配当性向55.0%)とし、23期連続の増配としました。一方で、「経営成績に相応しい株価水準・時価総額」を達成することを考えた場合、適切なタイ

ミングで自己株式の取得を実行することが必要であると考え、2023年6月に500万株(総額約11,817百万円)の自己株式取得を決議しました。取得にあたっては株主還元に対するコミットメントをより一層確固たるものにしたとの考えから、相応の規模を有する自己株式取得を確実に行うことが可能である「ファシリティ型自己株式取得」の方法を採用しました。

2023年度の業績は、売上高92,400百万円(前年度比4.1%増)、営業利益45,300百万円(前年度比3.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益30,800百万円(前年度比2.6%増)を見込んでいます。1株当たり年間配当金についても、引き続き目標を上回る69円40銭と予想しています。

QUESTION 2： 今後の財務戦略を教えてください。

ANSWER 2： 潤沢な資金をもとに、長期的な成長につながる新規投資を行います。

当社には潤沢な資金があり、それをどう活用していくかが今後の課題です。資金の活用方法については、設備投資や新規事業への投資、自己株式取得の実施などを検討しています。既存事業への投資としては、DX推進やAI活用など新たなテクノロジーへの投資により、増収増益へとつなげていきたいと考えています。こうしたテクノロジーへの投資はそれほどコストがかからず、数十億円ほどの投資で新たなものを生み出せると想定しています。

新規事業への投資にあたっては、オートオークション事業とのシナジーを重視しています。振り返ってみれば、2003年度に設立した株式会社アビズの自動車リサイクル事業もオートオークション会場と隣接する場所で創業し、中古自動車を扱うなかで最終段階において必要となる廃車処理のニーズに応えるために開始した事業です。以降、着実に事業を拡大し、今年で創業20年を迎えました。また、2022年度に実施したGlobal Mobility Service株式会社への投資も、中古車販売の活性化という点でオークション事業とのシナジーが期待できます(詳細はP17)。同社との提携によるFinTech(フィンテック)サービスは、開始後3か月で約360件の加盟店を獲得し、2023年度は3,000件のローンの取り扱いを見込んでいます。

新規事業の立ち上げにはリスクがともないますが、既存事業とのシナジーを生み出すことができれば長期的に利益を創出していくことが可能です。今後もそうした投資案件があれば、積極的な投資を行っていきます。それらに加えて、前述の株主還元を充実させます。さらなる企業成長を図り時価総額を増加させ、株主や投資家、ステークホルダーの皆様のご期待に応えてまいります。

### 長期配当実績

